

1. 事業が目指すところ

以前より小・中学生の学校外での文化体験活動の機会が減っており、コロナ禍でさらに学校内での体験機会までも失われました。大勢で集うことが叶わなくなっている現状においては、少人数で、かつ開催機会を増やすことが求められています。

学校現場においては、家庭教育や社会福祉の機能までも担う必要が増し、すべてのこどもの個性を受け入れる余裕がない現状です。地域で継続的に関わり、こどもの可能性や主体性を引き出す支援を行うため、特に学校教育で十分に補えないロボットプログラミングを含む情報教育や、音楽、文化芸術分野の体験活動の機会を創出することが目的です。

またコミュニティラジオ番組の制作体験を通じて、公に自分の意見を発信する経験を通じたモラル形成、多文化理解、体験や学習の場を創出します。大人に子ども達の率直なリアルな声が届くことも目的としています。

2. 活動内容

| | |
|---|---|
| <p>ロボットプログラミング（小中学生 6 名）のべ 66 名 4/24、5/22、6/26、7/24、8/28、9/25、10/23、11/27、12/25、1/22、2/26（予定） 講師：（株）S&F PARTNERS プログラミング教室 Makids 講師</p> | <p>コミュニティラジオ番組制作 わいわいキッズラジオ（小学生 1 名、中学生 3 名、高校生 1 名）のべ 20 名 5/18、7/20、9/21、11/16、1/18（全 5 回） 講師：FM わいわい代表理事 金千秋氏 理事（ミキサー） 藤田学氏</p> |
|  |  |

3. 成果や課題点

- (1) 成果：学校外での地域のプロ講師との継続的で深い関わりにより、こどもの興味関心と意欲がさらに高まりました。
- (2) 課題：主な対象となる要配慮家庭に広く届けたい一方で、個々の課題や特性に寄り添った継続的な支援に 대응するためには、対象者が限られてしまうというジレンマがあります。

4. 今後の展望、成果の活用

ロボットプログラミング講座の受講により、パソコンやプログラミングと情報リテラシーの基礎を習得しました。主体性をもちゲームやロボット操作の制作意欲が高まり、個々のスキルアップはもちろん、チームワークの体験を通じた社会性や協調性の向上がみられました。その成果として、さらにステップアップした学びを継続したいという新たなチャレンジへの意欲が見られました。

コミュニティラジオ番組制作では、パーソナリティーへのチャレンジにとどまらず、トークテーマやクイズコーナー等の企画考案も行いました。また YouTube 配信用の動画のスイッチング、スライド制作、タイムキーパー、音源やマイクの切り替え等音響ミキサー操作も習得しました。少人数ではありますが、個々に寄り添った支援を継続することにより、子どもたちと関わる大人達、地域の方との深い信頼関係ができました。参加者 1500 人規模の地域イベントではステージ MC という大きなチャレンジができ自信がついた様子でした。この子どもたちの活躍する姿がロールモデルとなり、次世代へ継続していくことが願いです。一団体でできる事業は限られますが、地域のネットワークとパートナーシップで、より多くの体験活動の機会を子どもたちに提供していきたいと願っております。